

令和元年6月12日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02381

研究課題名(和文) 東アジア比較板木研究体制の構築

研究課題名(英文) Construction of East Asian Comparative Printing Woodblock Research

研究代表者

金子 貴昭 (Kaneko, Takaaki)

立命館大学・衣笠総合研究機構・准教授

研究者番号：20411150

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、従来、日本国内のみを対象として行ってきた板木研究の範囲を東アジアに拡大し、中国・韓国・ベトナムとの比較板木研究を可能とすべく、各国の木版研究者との研究交流体制を構築した。また、単なる交流にとどまらず、研究交流を実際的なものとするため、海外所蔵機関の板木デジタルアーカイブ構築に着手した。

同時に、東アジア諸国と比較して、脆弱な日本の板木保存体制を克服すべく、板木デジタルアーカイブによる日本国内の板木資料の集積と保存を進捗させた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の印刷史においては、板木を用いた印刷の比重が大きかったが、その手法は決してわが国独自のものではなく、東アジア地域に共通するものであった。そうした観点から、日本と同様の木版印刷文化を持つ東アジア各国(中国・韓国・ベトナム)との比較研究体制を構築すべく、国際シンポジウムへの参加や、国際ワークショップの企画・運営をおこないつつ、各国の研究者との交流体制を構築した。

研究成果の概要(英文)：A previous research on the woodblock printing history had only been applicable to the domestic blocks. This research has established the system of research exchanges to expand the scope of the research to East Asian block print culture. The project has started digitization of the printing blocks which owned by the oversea institute to make these exchanges steady. Along with it, the subject has progressed digitization to preserve Japanese printing woodblocks to overcome powerless of Japanese circumstances comparing the others countries.

研究分野：近世出版史

キーワード：板木 版木 東アジア 木版 デジタルアーカイブ 比較研究

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1)日本印刷史の大部分は活字ではなく、板木に内容を彫り刻んで摺りに至る、いわゆる木版印刷によるものである。したがって、板木を研究することは、日本書籍文化史の基軸を研究することに他ならない。そうした観点から、研究代表者が平成 20~27 年度に採択された科研費(08J55612、23820071、25770097)によって日本国内に所蔵される板木のデジタルアーカイブ構築・公開を進捗させたことにより、板木の研究利用を可能とする基盤構築も進みつつあった。

(2)一方、東アジアにおいて日本と同じく木版印刷が栄えた国に、中国(チベットを含む)・朝鮮・ベトナムがある。したがって、日本の印刷技術は決して独自のものではなく、中国・朝鮮からの影響を受けつつ発展してきた側面があると想定されるが、既往の研究においては、書籍交流史のレベルに留まっており、各国の板木に対する言及はほとんど見られない。日本の板木とその他の国々の板木は何が共通し、何が異なるのか、日本の印刷技術はそれらの国々から何を受け継ぎ、どのように発展させてきたのかを見定めることも、今後必要な観点となっていた。

(3)上述の観点から、日本国内のみに着目してきた従来の板木研究に、東アジアという範囲を与え、日本と東アジア各国の板木の共通性・違いを明らかにし、日本の板木の特徴をさらに明確にするための研究体制・交流体制の構築が必要な状況であった。

(4)また、国家的機関や巨大組織が板木の保存に関与している東アジア各国に比べ、日本の板木集積体制は極めて脆弱であった。したがって、過年度の研究課題に引き続き、デジタルアーカイブ構築という手法によって日本の板木保存・集積を継続する必要があった。

### 2. 研究の目的

上述の背景に照らし、本研究においては、

- (1)東アジア諸国の板木デジタルアーカイブ構築着手
- (2)日本国内の板木デジタルアーカイブ拡充の継続
- (3)東アジア比較板木研究体制の構築

の3点を目的とした。

### 3. 研究の方法

上述の目的に照らし、

- (1)国際シンポジウム参加や国際ワークショップの開催を通じた東アジア木版研究者との研究交流
- (2)(1)を通じた海外所蔵機関との関係構築とデジタルアーカイブ構築の実施
- (3)美術書出版株式会社芸艸堂、本山佛光寺所蔵板木など、国内所蔵板木のデジタルアーカイブ構築継続

を方法として、本研究にのぞんだ。

### 4. 研究成果

(1)東アジアの木版研究者が参加する国際シンポジウムに積極的に参加し、研究成果を公表するとともに、各国の研究者と研究交流をおこない、比較板木研究を進めていくための基盤を形成した。また、International Association for Printing Woodblock(IAPW)の一員として活動をおこなった。その交流をもとに、研究代表者が国際ワークショップ「東アジア木版文化研究とデジタル・ヒューマニティーズの可能性」(2018年2月28日~3月1日)を企画・運営し、中国・韓国・ベトナムから木版研究者を招聘して、東アジアレベルで協働していくためのポイントを議論するなど、今後の体制を確固たるものとした。研究期間終了後となるが、IAPWについては、研究代表者がコーディネーターとなって、2019年度に初の日本開催をおこなう予定である。

(2)研究代表者が所属する立命館大学アート・リサーチセンターと韓国・古版画博物館との間で相互交流協定を締結し、古版画博物館が所蔵する板木のデジタルアーカイブ構築に着手した。当該研究期間においては、2017年3月、2019年3月に同館でデジタル化を実施し、日本の板木を中心に、236点(2,117カット)のデジタル化をおこなった。

(3)本山佛光寺が所蔵する板木のデジタルアーカイブ構築を進捗させ、当該研究期間において、板木344点(6,710カット)のデジタル化をおこなった。また、今後のデジタルアーカイブ活動を見据え、クリーニングやラベリングなどのデジタル化準備も当該期間に進めた。この他、日本国内においては、過年度に調査をおこなった板木に関連する板木コレクションや、錦絵彫摺技法を受け継ぐ近代版木の板木が出現したため、適宜これらの収集活動をおこない、クリーニング・測定・デジタル化などの調査活動を進めた。

(4)(2)(3)については、デジタル化が完了した板木資料をwebデータベース「ARC板木ポータ

ルデータベース」に順次登録し、データの蓄積と可能な範囲での公開に努め、既存の板木デジタルアーカイブを拡充した。

(5)上記の活動を基盤として研究を進め、研究成果の公表をおこなった。

現存する『奥細道菅菰抄』の板木1枚を起点として、板本の諸本・出版記録と合わせて分析し、これまで注目されていなかった記録をもとに、刊行経緯と板木現存に至る流れを考究し、先行研究を批判しつつ、該書の刷行に関与しなかったとされてきた俳仙堂（浦井徳右衛門）が実際には関与していたことを指摘した。またその経緯が『奥細道菅菰抄』のみならず、蕉門俳書全体に及ぶことを指摘し、蕉門俳書の板株の流れにおいて、特に大坂の板元（奈良屋長兵衛と河内屋茂兵衛）が蕉門俳書の出版に果たした役割について考察をおこなった（雑誌論文）。

日本の板木の現存状況において、浮世絵をはじめとする絵画の板木が寡少である事実とその歴史的要因を考究し、浮世絵研究において、いかに板木を活用していくべきか、その方策として、浮世絵彫摺の技術をとどめる複製板木や近代版画の板木の研究活用を提言した（雑誌論文）。

書道の手本と言われ、中国や韓国にも共通する分野である「法帖」について、現存する法帖の板木とそれらによって摺刷された法帖をもとに、紙の地色に文字が黒く摺り出される凸版、墨摺りの背景に文字が白抜きとなる凹版[左版]、拓本と同じ要領で板木の上においた紙に墨打ちをおこなう正面版の3つの手法の存在を紹介しつつ、日本近世において、考証学の充実に伴って木版印刷技術が典籍の複写・複製技術として着目されていた事実を考察した（学会発表）。

板木研究を効率的に進めていく上で、デジタル技術の活用は必須であり、当該研究に活用可能な技術・システムを追求した。板木観察の面では、Reflectance Transformation Imaging (RTI)を用いた複数の斜光画像の統合について試験をおこない、仮想的に光源の入射角を変えながら板木表面の凹凸を観察する手法について検証をおこなった（雑誌論文）。また、出版記録と板木・板本との連携の面では、出版記録テキストデータを格納するテキストアノテーションシステムの開発に参加し、アノテーションの自動付与とサジェスト、書名・版元名・テクニカルチームの名寄せなど、標記当該研究に対する有効性を実証した（学会発表）。

当該研究期間の研究交流において、東アジア各国の所蔵機関が、板木現存の現状把握と保存という共通の課題を抱えていることが明らかになった。各国の状況により、採るべき解決策は必ず異なるが、技術と経験の共有という観点から、日本の板木の現存状況についてまとめた他、マイクロスコブによるカビの観察と同定、X線透過撮影による板木内部の保存状況観察・3次元デジタイザによる板木観察・X線CTスキャナによる内部構造の立体的観察・虫害を受けた板木へのアクリル樹脂注入による崩落防止など、日本で行われている保存科学を活用した板木保存研究の実情について紹介をおこなった（学会発表）。

以上の研究成果により、日本国内の板木研究環境を強化しつつ、東アジアの研究者が交流を深めながら比較板木研究をおこなっていくための基盤を形成することに成功した。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計5件)

金子 貴昭、『奥細道菅菰抄』の板株再考、俳文学研究、査読無、71、2019、pp.2-3

金子 貴昭、研究ツール創出を目的としたデータベース構築 立命館大学アート・リサーチセンター「板木ポータルデータベース」を中心に、日本歴史、査読無、848、2019、pp.27-33  
Atsushi Maruyama, Jun'ichiro Takemura, Hayato Sawada, Takaaki Kaneko, Yukihiro Kohmatsu & Atsushi Iriguchi, Hairs in old books isotopically reconstruct the eating habits of early modern Japan, Scientific Reports、査読有、8:12152、2018、pp.1-8  
DOI:10.1038/s41598-018-30617-0

Takaaki Kaneko, The Printing Blocks of Woodblock-printed Books, The World of the Japanese Illustrated Book(Freer Gallery of Art and Arthur M. Sackler Gallery Smithsonian Institution)、<https://pulverer.si.edu/node/1217>、査読無、2018、web掲載のためページ数無し

金子 貴昭、浮世絵研究における板木研究の課題、美術フォーラム 21、査読無、34、2016、pp.65-71

[学会発表](計8件)

Takaaki Kaneko, The Printing Blocks for the Calligraphy Copybooks: Relief, Intaglio and Rubbing, The 2018 International Association for Printing Woodblocks (IAPW) Symposium: Cultural History of Printing Woodblocks in Asia-Identification and Comparison, 2018年

竹内 幸絵・樋口 摩彌・金子 貴昭、明治・大正期の新聞紙の整理保存及びデジタルアーカイブの検討 立命館大学アート・リサーチセンターの事例を参考に、日本マス・コミュニケーション学会 2018 年度春季研究発表会ワークショップ、2018 年

金子 貴昭、日本の板木研究の現状とデジタルアーカイブの活用、アジア圏文化資源研究開拓プロジェクト国際ワークショップ「東アジア木版文化研究とデジタル・ヒューマニティーズの可能性」、2018 年

金子 貴昭・山路正憲、テキストアノテーションシステムによる歴史資料（文献）の有機的活用 江戸期出版記録を事例として、アート・ドキュメンテーション学会第 10 回秋季研究集会、2017 年

Takaaki Kaneko, Status of Japanese Woodblocks; The Process of Pre-digitalization and Conservation, International Symposium "Preservation of Woodblocks in Asia Sharing Experience", 2017 年

金子 貴昭、浮世絵の板木とその研究活用、8 次原州世界古版画文化祭国際学術大会、2017 年

金子 貴昭、続・日本近世期の板木現存状況、東亜古代彫版印刷と版片国際学術検討会、2016 年

金子 貴昭、立命館大学アート・リサーチセンターの版画関連データベースと東アジア版画共同研究への応用の可能性、7 次原州世界古版画文化祭国際学術大会、2016 年

#### 〔その他〕

「ARC 板木ポータルデータベース」、<http://www.dh-jac.net/db/hangi/>

金子 貴昭、木版印刷の歴史・さまざまな板木、ワークショップ「自分で和装絵本を 摺る & 綴じる」、2019 年

金子 貴昭、レクチャー「法藏館の板木蔵と板木」、2017 年、近世の宗教と社会研究会 東本願寺例会

金子 貴昭、講演『奥細道菅菰抄』とその板木、おおがき芭蕉大学、2017 年

金子 貴昭、歴史学演習「近世の出版（版木）」、熊本県立大学、2017 年

金子 貴昭、ミニレクチャー「法藏館の板木蔵について」、株式会社法藏館、2017 年

## 6 . 研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8 桁）：

### (2)研究協力者

研究協力者氏名：宮川 真弥

ローマ字氏名：Miyagawa Shinya

研究協力者氏名：韓 禅学

ローマ字氏名：Han Seonhak

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。